



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2014

11月28日号

143
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

鉄は熱いうちに打て!



副会長 新 里 昌 一

『世界のエリートの「失敗力」』と言う本があります。25年度県学術大会で講演して頂いた昭和大学の加藤京一さんが、先輩から推薦された本だとの事で私も読んでみました。

当然、私は世界のエリートではなく、ただのオジサンですが大変面白く読めました。この歳のオジサンとしては、向こう見ずな性格で人より多くの失敗を経験しています。失敗の数では、誰にも負けないと変な自慢があります。技師会の活動でも、今まで多くの失敗をして皆さんに大変ご迷惑をお掛けしました。

失敗を推奨する訳ではありませんが、失敗を覚悟して大きな難しい仕事に挑めと、この本から言われた気がします。少なくとも失敗の擦り付けや魔女狩りは辞めましょう。それより失敗の背景や原因を追究する事が、今後の成功に繋がります。

野球で言えば、内野ゴロを取り損ねた(失敗)、慌てて暴投になると1塁アウトどころか、2塁に進塁させる結果になります(失敗の連鎖)。でも、冷静にボールを1塁に投げればアウトになるかも知れません(失敗をリカバー)。

日本社会には閉塞感があり、失敗を恐れる傾向にあります。終身雇用の社会では、変に目立たない事が良いとの傾向があるかも知れません。目立って大御所に目を付けられて、いつも苛められる事は誰でも嫌です。

当院では、再撮や間違った画像配信等では「ファントルくん」という事故報告書の提出を求められます。その内容を匿名化して、私が部内へ配信しています。翌朝のミーティングでも話しますし、月例会議の中でも背景や原因、改善策も提示されて話し合います。それをリスクマネージャーが、毎年集計して事故の傾向や分析を行って示します。

改善策により大きく事故が減少した事例もあります。事故は起こした本人だけのモノではなく、部内の共有財産と言う考え方が大事です。同じような事故を起こさないためにも、情報公開して再発防止を呼び掛けます。

若いうちは失敗が付き物です。オジサンになっても多くの失敗を経験しています。でもその失敗から学ぶモノは大きいです。挑戦しなかった後悔からは、改善できるモノは何もありません。

学術発表でも、最初から素晴らしい内容をスラスラとは話せません。緊張したり間違えたりもします。でもその積み重ねが、人を大きく成長させて行きます。

学会や研究会でただ聞いているのは楽ですが、頑張って壇上に上がって発表する事が1番の勉強になります。生半可な知識では、質問に答えられないからです。

もし先輩から発表してみないかと誘われたら、躊躇せず失敗を考えずに「ハイ」と答えてください。そのチャンスを、掴むか逃すかは貴方次第です。鉄は熱いうちに打てと言います。逃げちゃダメだ。新設された研究助成金を利用して、来年の県学術大会で貴方の発表をお待ちしています!

福島県診療放射線技師学会大会を終えて

学会大会実行副委員長 佐藤 孝則

日毎に寒気加わる時節となりましたが、平成26年度福島県診療放射線技師学会大会を去る、11月9日に星総合病院ポラリス看護学院・メグレズホールにて開催し、会員の皆さまのおかげで盛会裏に終了することができました。ご参加くださいました会員の皆様、ありがとうございました。また座長の労をお取りいただいた方々、講演会の講師の方々には心より厚く御礼申し上げます。昨年度は、第3回東北放射線医療技術学会大会が我が県主催で行われたため、例年の学会発表会を行わず、「学会講演会」のみを行いました。本年度は、例年どおりに開催されましたので、簡単に大会を振り返ってみたいと思います。



(開会の挨拶：新里実行委員長)



(大会長挨拶：齋藤会長)

大会は、朝9時から一般公開講演が下記のとおり行われました。

一般公開講演

司会：松井 大樹 (北福島医療センター)

『実録 救急救命センター24時間熱くERを語る!』

太田総合病院附属太田西ノ内病院 麻酔科

石田 時也 先生

石田先生は、救急医として働かれている現場の状況を交えながら、救急医や診療放射線技師をはじめとするコメディカルのスタッフに求めるものを、テーマと同じように熱く語って頂きました。



(スライド：『実録救急救命センター24時間熱くERを語る!』)



(講演の様子：石田時也先生)

学会奨励賞

10時から、開会式が行われ、昨年の第3回東北放射線医療技術学会大会発表者の中から

- ・「3Dマンモグラフィにおける

基礎的視覚評価と運用の構築」

星総合病院 緑川 鮎美 氏

- ・「FPDシステムにおける撮影線量低減の試み

～画像評価により検討～」

福島県立医科大学附属病院 渡部 直樹 氏

のお二人の方が、学会奨励賞を受賞されました。



(受賞者：左から緑川さん 齋藤会長 渡部さん)

10時20分からは、一般演題として口述発表37題の発表が「ランチョンセミナー」を挟んで18時30分頃までなされ、それぞれ活発な討論がなされました。詳細については、後日、技師会会報に掲載される予定です。今後、研究発表を中心に内容の更なるレベルアップを期待したいと思います。

ランチョンセミナー

司会：大原 亮平（太田西ノ内病院）

「診療放射線技師に必要なCT読影のピットホール」

埼玉県済生会川口総合病院 診療放射線部科長

富田 博信 先生



(講演の様子：富田博信先生)

富田先生は、日頃の経験と研究成果に基づき、CT読影のピットホールについて分かりやすく詳細にお話していただきました。

学術大会終了時は、外はもう暗く冷たい雨が少し降っていました。それを振り払ってくれるかのように、参加者は204名（うち会員145名）の参加をいただき、今までに無い活発な発表・討論が行われました。

多くの会員が参加された要因は、演題数の多さと会場の地域性（郡山市開催）が挙げられます。来年度の開催会場はまだ、決定していませんが、今年に劣らない盛大な学術大会にしていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

第2回理事会議事録（抄）

日 時：平成26年9月26日14時～16時20分

場 所：医大放射線部カンファランス室

出席理事：齋藤会長、遊佐・新里副会長

佐藤（政）・平井・水沼・佐藤（佳）・堀江・
秋山・村上・白石・佐藤（孝）・山田・白川
理事

欠席理事：菅野・渡部理事

事務局：伊藤、阿部

議 事：

1、事業経過報告と今後の予定

* 会長から26年度会務経過文書を示し、各理事と地区協議会委員長からの追記・訂正を求めた。

* 各委員会及び地区協議会から経過説明がされた。

総務企画委員会

イベント時配布用クリアファイル見積し、一部29円で5,000部作成、各地区1,000部、本部1,000部配布活用する。

表彰委員会

日放技永年勤続30年該当者9名あり、受賞の意思確認中だが辞退者・無返答あり、確認次第推薦する。

精度管理委員会

ピラニアを使用したX線装置の測定結果は今年度県学術大会で報告する。

調査委員会

アンケートによる調査が遅れ学術大会に間に合わないので会報で報告する。

学術委員会

学術奨励賞論文賞・学術奨励賞特別賞について選考中。学術大会プログラムは新会員カードと一緒に発送予定。

生涯教育委員会

静脈注射講習会は13名受講で開催。来年2月に基礎講習MRIを星総合病院で行う。

財務委員会

- ・ 3年間未納者は退会の対象者になるので各地区委員長は連絡し意思確認すること。
- ・ 全国大会等の発表者等への奨励賞該当者は各地区で把握しやすいので、支払した上本部に請求などの方法が良い。
- ・ 委員会等会議出席者への旅費支給方法について委員長が振り分けて渡すようにしたい。

ネットワーク委員会

H P リニューアルの経過を報告。

2、協議事項

日放技表彰規定の中に地方技師会の役員を表彰する規定があり、該当者がいるので推薦したい。また、来年度県総会時に県役員功労該当者を表彰したい旨の提案を承認。

慶弔電報の取り扱いについて。規定による花輪・弔電の扱いは時間的制約があるので、各地区にて会長名で花輪・弔電を手配、支払いし、後で本部に請求する事としたい旨の提案を承認。

会議・イベント等開催申請・報告について

今まで申請・報告の書式等統一されてなかったので、統一した「会議開催申請書」「研修会・講習会起案書」「開催報告書」「収支決算書」「会議報告書・議事録記録」に従い申請報告を義務づけることを承認。

緊急時連絡体制の整備について

震災時の教訓から地区協議会委員長等は、自宅電話を含め連絡体制を作ること。メルアドを含め理事間の連絡網表を作る事を承認。

生涯教育委員会から

各支部 P C の機能が研修会等参加確認バーコード読み込みに不適なので、Excel更新が必要との提案を承認。

バーコードリーダープログラム変更について回収変更作業を承認。

ネットワーク委員会実務担当者後継について委員会に一任を承認。

ホームページ内の被ばく線量についての質問への対応について、実際の数値より極端に少ない表記を指摘され、メールでお詫びした。数値については J A R T の表示に準じて差し替えることを承認。

学術大会時バーコードリーダーでの受付は会員 I D が 5 桁に変わる時期なので 4 桁カード持参者には筆記で対応を承認。

X線アナライザーの使用について

ピラニアの一般貸し出しは、月毎各地区ローテーション方式にする。地区に回ってきたときに借り受け活用を。割当地区外でどうしても借用したいときは、自身で借りに行き週内に返却するように、の提案を承認。

地 区 だ よ り

県北地区

「県北協議会が『健康フェスタ2014』に参加」

去る9月28日(日)MAXふくしまAOZ(アオウゼ)において福島市主催の「健康フェスタ2014」が開催され「始めよう!続けよう!ひろげよう!健康づくり」をメインテーマに26の市内福祉団体等が参加し大変賑やかな催しとなりました。今年もそこに県北協議会が参加し「医療放射線の有効利用や放射線技師の仕事」を中心としたポスター展示、最新医療画像の紹介などを行いました。



マンモグラフィのコーナーや、3D画像展示には特に

多くの方が集まり様々な質問がよせられていました。入り口では放射線検査に関する簡単なクイズを行い来場者には大変好評なようでした。約160名の方が技師会のブースを訪れてくださり、放射線技師会の活動を大いにアピールする機会となりました。(池田)

いわき地区

「第23回いわき地区画像研究会」開催

平成26年10月14日いわき市立保健センター多目的ホールにおいて、「第23回いわき地区画像研究会」が行われました。

演題は2題で前半は、「CTにおける『逐次近似』のこれまでとこれから」として、東芝メディカルシステムズ株式会社CT担当鎌田氏に逐次近似法を基本とする「A I D R 3 D」について講演していただきました。

A I D R 3 Dでは、低線量撮影時に避けることのできないノイズを低減するために、投影データ上のノイズを落とす処理と、画像データ内でノイズを落とす処理を追加した画像再構成技術です。



最大75%の被曝低減を実現でき再構成に時間がかからないのが特徴であり、CT検査のスループットへの影響がほとんどない、という今後技術の進歩により更なる被曝の低減が期待できると思います。後半は、各施設におけるCT検査の現状と題し、4施設のCT検査の内容や件数について説明していただきました。施設毎に検査の特徴があり大変勉強になりました。(菅原)

会津地区

「第30回健康まつり」

去る年9月28日、会津若松文化センターにおいて、会津若松市民のための健康まつりが開催されました。この健康まつりも今回で第30回目を迎え、今回は「健康第一、豊かな生活」をメインテーマに掲げて、診療放射線技師会をはじめとして様々な医療団体のみなさんが一丸となって盛り上げていました。

診療放射線技師会のブースでは、例年いろんなパネル展示をしておりますが、今回は放射線の基礎知識や乳がん検診に関するパネルの展示、また実際に撮影した最新3DCTの動画を常に流し、訪れた方々が普段なかなか見ることができない動画を目にして、大変興味深そうに覗いているのが印象的でした。



当日は天候にも恵まれ、晴れやかな天気の中、大勢の市民の皆さん方に来ていただき、大盛況に終えることができました。(森谷)

県南地区

「保健・福祉フェスティバル郡山2014」

10月5日(日)、郡山カルチャーパークにて『ファミリーフェスタ2014』が開催されました。約650名の来場者がありました。

昨年同様に技師会のブースでは骨密度測定装置を準備しましたので、それをL字に囲むようにして診療放射線に関連するパネルを展示しました。佐藤地区委員長を含めて男性5人のスタッフで活動しました。(雨天の中、お疲れ様でした。)

今年は“いっしょに考えよう 放射線のこと”と印字したA4クリアファイルを配布用に準備しました。さらにブース看板も新規で作成しました。このキャッチコピーは白河厚生病院の金澤氏から頂いたものです。この場を借りて御礼を申し上げます。



キャッチコピーが呼び水となったのか150人近くの来場者が足を運んでくれたので大変に賑わいました。

午後、独りの女性が骨密度測定にいらっしゃいました。測定が終わった後、被ばくの不安を私に話しました。女性がかかなり高齢だったこともあり私は相応の対応をしたのですが、すぐにそれを後悔しました。お話しの内容がとても深いもので感心したのです。子供達のこと、県民のこと、将来のことをしっかりと考えたものでした。説明する立場でいたはずなのに放射線のことを改めて考えさせられたのは私の方でした。

今回は準備の時間的が足りず、また人員的に不十分だと感じました。当日は、展示パネルに興味をもたれる方が数名いらっしゃったのに、十分に説明ができるマンパワーも無くまた、マンモグラフィの相談にのれる女性スタッフがいなかったことが反省点です。(県南地区 濱端)

「しらかわピンクリボンの会」

2014年10月11日(土曜)にイオン白河西郷店の“イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン”において、しら

かわピンクリボンの会「検診啓蒙活動」に白河厚生総合病院から我妻真一会員と私（田代）で参加しましたのでご報告いたします。

“イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン”とは、2001年10月11日の「イオン・デー」から実施され、お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXへ投函して頂き、黄色レシート金額合計1%をその団体に還元するというシステムです。



しらかわピンクリボンの会から6名、技師会より2名の総勢8名での活動でした。ピンクリボンのウィンドブレーカーを身にまとい、乳がん触診体験モデルに触れてもらったり、パンフレットをお渡ししたり、黄色いレシートの投函をお願いしたり、買い物を終えた一般の方々へ乳がん検診の重要性や自己検診の大切さを伝えたりと、奮闘してまいりました。

ほとんどの方が乳がんについてある程度ご存じで、受診率とはうらはらに病気についてはメジャーなんだなあと感じました。今後ご協力頂ける会員の方と公益活動に参加していきたいと思っております。（県南地区 田代）

「ピンクリボン in 郡山2014」

10月26日(日)「ピンクリボン in 郡山2014」が開催されました。好天に恵まれ午前中から多くの来場者があり、とりわけ今年は、乳がん検診が無料で実施されることもあり希望者が多く、先着順の申し込みは当日を待たずして早々に一杯となったそうです。

当会の出展テーマは、

「乳腺疾患の診断に用いられる検査・装置の特徴をご紹介します」

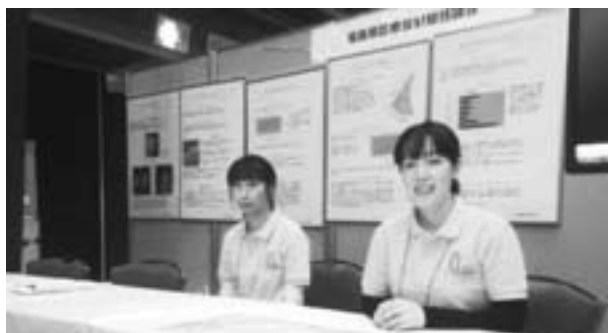
「乳がん検診に関するパネル展示」

「放射線に関する相談」

としました。

大型ディスプレイを持ち込み、検査の流れを動画にて

見てもらいました。来場者への視覚的なアプローチとしては成功したようです。



当ブースへ立ち寄り頂いた176名の方へ、11月9日に開催された当会学術大会一般講演会の案内を当会オリジナルクリアファイルに綴じて配布し、一般講演会へも足を運んで頂けるよう啓蒙しました。

これまでの経験を来年度に繋げていきたいと考えています。なお、イベント開催にあたり、(公財)福島県診療放射線技師会、福島県乳腺画像分科会も後援しました。

(白石)

メールマガジン登録方法の案内

福島県診療放射線技師会のメールマガジン配信を希望する方は、

fart@star7.jp

に空メール（件名・本文なし）を送信してください。登録完了メールが届きます。以上で登録完了です。

メールマガジンでは、分科会、勉強会、学術講演会、地区行事開催案内等のお知らせ、また、緊急に会員の皆さんにお知らせする内容等について配信いたします。

編集後記

秋も終わって、とうとう雪の季節がやってきました。そして、それは同時にインフルエンザの流行時期でもあります。マスクやうがい、手洗いなどの予防はもちろんのこと、いざという時のためにも予防接種なども積極的に受けていきましょう！（森谷）

県南（責）	白石嘉博	星総合病院
県北	池田正光	福島県立医大
県南	本間 妙	総合南東北病院
会津	森谷辰裕	会津中央病院
浜通	大井和広	小野田病院
浜通	菅原正志	福島労災病院